はっきり言っておく。
アメーン、アメーン（ἀμὴν ἀμὴν<ἀμήν）
（19、24、25）

ヨハネによる福音書 5 章 19～30 節

「イエスという名の分かれ道」

フラ・アンジェリコ「磔刑(たっけい)」（1419～1420）

わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。(24)

＊死から外に出て（ἐκ τοῦ θανάτου（エク トゥー サ ナ トゥ ー）、いのちの中へと（εἰς τὴν ζωήν（エイス テーン ゾーエーン）
すでに移ってしまっている（μεταβέβηκεν（メタ ベ ベ ー ケ ン）<μεταβαίνω（メタ バ イ ノ ー） の現在完了形）

父は・・・これらのことよりも大きな業(わざ)を子にお示しになって、あなたたちが驚くことになる。すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命を与える。また、父はだれをも裁かず、裁きは一切 子に任せておられる。

(20～22)

「裁き」について

「十字架」について

「愛(すなわち)＝義」「義(すなわち)＝愛」

義のない愛は放縦へと誘(いざな)い、愛のない義は管理と支配に至る。

キリストは、ハンをダンしたもうた。

ここに、新しい希望が与えられた。

―サー・ナム・ドング（韓国の神学者）

イエス・キリストの辞書には「自業自得」という言葉はない。

「いのち」について

「復活」について

はっきり言っておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子もそのとおりにする。父は子を愛して、御自分のなさることをすべて 子に示されるからである。(19～20)

わたしを見た者は、父〔なる神〕を見たのだ。(14：9)

ルドルフ・ブルトマン

1884～1976年

20世紀を代表する、ドイツの新約聖書学者。

今日の新約学研究に礎を刻む。

イエスは単なる教訓を説いて諭されたのではない。それは決断するようにとの招きであり、呼びかけである。

４つの福音書のどこをとっても、御自身が父なる神と一つであられることを、主イエスがこれほどまでに格式をもって、組織立てて、また順序立てて整然と語っておられる所はほかにない。神から与えられた使命と権威についても、そして 御自身がメシアであることについても同じである。　　―J. C. ライル（英国国教会主教、神学者）

お稲荷（いなり）さん

金毘羅（こんぴら）さん

お地蔵さん